

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	視神経炎に対する造影FLAIRの描出能に関する検討		
② 実施予定期間	実施許可日から 2028年3月31日		
③ 対象患者	以下の対象期間中に当院の対象診療科でシーメンス社製のMRI装置を用いて眼窩MRIを受けられた患者さん		
④ 対象期間	研究対象とする期間：2016年9月1日から2024年6月30日		
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院		
⑥ 対象診療科	眼科、脳神経内科		
⑦ 研究責任者	氏名	飯田 悦史	所属 放射線科
⑧ 使用する情報等	<p>①日常診療の記録から収集する項目：識別コード、年齢、性別、現病歴、既往歴、最終診断および診断根拠（眼底所見、相対的瞳孔求心路障害、中心フリッカー検査、視力、光干渉断層計検査、抗MOG抗体、抗アクアポリン4抗体、オリゴクローナルバンド、ミエリン塩基性タンパク、眼窩MRI画像</p> <p>②本研究で検討する項目：T2強調像、造影T1強調像、造影FLAIRにおける視神経炎の有無（視神経管内、頭蓋内、眼窩内、視神経乳頭の4か所）および診断確信度</p>		
⑨ 研究の概要	<p>視神経炎の診断や病変部位の評価にはMRIが広く利用されており、特にT2強調像や造影T1強調像が病変の検出に有用です。当院では視神経炎が疑われている場合は、日常診療として2016年9月から造影fluid attenuated inversion recovery (FLAIR)を追加しています。造影FLAIRは脳表などの造影効果が分かりやすく、髄膜炎の診断においてその有用性が報告されています。視神経炎の診断においても造影FLAIRが有効であると考えられますが、その評価は十分に行われていません。</p> <p>本研究の目的は、視神経炎が疑われる患者さんにおいて、造影FLAIRでの病変の描出能をT2強調像や造影T1強調像と比較することです。本研究の結果は、視神経炎の診断能向上に寄与する可能性があります。</p>		
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2024年8月14日	
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧でき		

	ます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。		
⑮ 研究の資金源	放射線医学講座の奨学寄付金にて行います。		
⑯ 利益相反	ありません。(シーメンス社からの寄付金受け入れもありません。)		
⑰ 問い合わせ先・ 相談窓口	山口大学医学部附属病院 放射線科 担当者：飯田 悦史		
	電話	0836-22-2285	FAX 0836-22-2285